

2 病気の子どもたちが困っていること

*「病気」「入院」への不安・ストレス

この病気は、いつ治るのかな？ 病院はこわくない？

お家の人や友達は、私のことを忘れてしまわないかな？

薬は苦いし、治療や手術は痛いし、どうして我慢しなくてはならないのかな？

*退院後に「家庭」で感じる不安・ストレス

自分が病気になったのは、親のせいだ！ 家の中で閉じこもっていつまらないよ！

お医者に止められているけど、好きな食べ物はいつになったら食べられるのかな？

*退院後に「学校」で感じる不安・ストレス

体調が悪く、疲れやすくて動けないのに「さぼっている」と言われる

自分のこの姿を見て、笑われたらどうしよう

病気のことは、これ以上知られたくない

勉強で習っていないところがある

体育や行事は、いつも見学ばかりだ

欠席が多くて、学校に行きづらい

みんなとちがう…
なぜ、自分だけ…
みんなと一緒に
活動できない…



病気の児童生徒が困っていること

高まる不安を解消しようと、みんなの前では強がっていたり、本人自身も気付かずにいることがあったり、場合によっては身体症状として表れることもあります。また、不安やストレスの内容は、発達段階や性格・理解力、病気の種類や状態によって異なります。退院後も、病気以前と同じ生活ができるわけではなく、生活全般に規制がある場合の方が多く、不安やストレスの背景を理解し、子どもの気持ちを少しでも軽くするような支援と配慮を続けることを忘れないことが大切になります。

- ◎学習時間に制約を受けているほか、学習内容の空白や遅れ、身体活動の制限があります。
- ◎病気による種々の制限により、体験が不足しがちです。
- ◎病気への不安や家族・友人から離れた不安から、心理的に不安定になりがちです。